

Press Release



ベーリンガーインゲルハイム 第 49 回(2012 年度)ベルツ賞受賞論文を発表

募集テーマ「自己免疫疾患 -最新の進歩-」

2012 年 11 月 13 日 日本/東京

ベーリンガーインゲルハイム ジャパン株式会社(本社:東京都品川区 代表取締役社長:鳥居 正男)は本日、第 49 回(2012 年度)ベルツ賞受賞論文を発表するとともに、贈呈式を執り行いました。

「ベルツ賞」は、日本とドイツの間にある歴史的な医学領域での交流関係を回顧し、またその交流関係を更に深めていく目的で、ベーリンガーインゲルハイムが 1964 年に設立した伝統のある医学賞です。毎年、時宜に応じたテーマで論文を募り、優れた論文に対し授与します。第 49 回(2012 年度)の募集テーマは「自己免疫疾患 -最新の進歩-」でした。

本年度は、寄せられた 12 編の応募論文の中から、1 等賞に「**自己免疫疾患、天疱瘡の病態解明と臨床応用**」(慶應義塾大学医学部皮膚科 教授 天谷雅行博士)が選ばれました。2 等賞には「**自己免疫疾患の遺伝子解析:ゲノム情報から機能解析へ**」(東京大学大学院 医学系研究科 内科学専攻 アレルギーリウマチ学 教授 山本 一彦 博士ら)が選定されました。

贈呈式は本日、ドイツ大使公邸で執り行われました。ベーリンガーインゲルハイム取締役会会長 Prof. アンドレアス・バーナーより、1 等賞受賞者には 800 万円、2 等賞受賞者には 400 万円の賞金、さらに賞状とメダルがそれぞれ贈呈されました。

Prof. バーナーは贈呈式に臨み、ベルツ賞を 49 回にわたり継続してきたことについて、「日本の臨床医や研究者が常に、受賞に値する優秀な学術論文を提供してきたこと、各分野の専門家が真剣に選定に取り組んできたからこそ、伝統ある賞として認められるようになりました。研究者の方々に敬意を表するとともに、選考委員会メンバーの皆様、長きにわたりベルツ賞をご支援いただいているドイツ大使に、ベーリンガーインゲルハイムを代表して心から御礼申し上げます」との謝意を述べました。



2012年11月13日

ベーリンガーインゲルハイム ジャパン株式会社
広報部

東京都品川区大崎2-1-1

ThinkPark Tower

Tel: 03-6417-2145

Fax: 03-5435-2920



当プレスリリースは、弊社HPからも
ご覧いただけます。

www.boehringer-ingelheim.co.jp

1964年に設立されたベルツ賞は、日本の近代医学の発展に大きな功績を残したドイツ人医師ベルツ博士の名を冠し、正式には「エルウィン・フォン・ベルツ賞」と称します。ベルツ賞は例年、常任委員会の定めるテーマに基づいて応募された研究論文の中から、特に優秀な研究論文に対して贈呈されます。本年を含む49年間の歴史の中、累計で111編の論文が受賞し、受賞された先生方の人数は延べ359人にのぼります。

ベルツ博士はドイツチュービンゲン大学で医学を学び、ライプチヒ大学講師を経て1876年来日、現在の東京大学医学部の前身となる東京医学校で教鞭をとり、数多くの優れた日本人医学者を育てました。また皇室の侍医であったことも広く知られています。公衆衛生の方面でも、日本の防疫事業の基礎を築くなど、明治から始まる黎明期に日本が西洋医学を導入する上で、指導者として大いに貢献したひとりです。

第49回(2012年度)ベルツ賞受賞論文

募集テーマ: 自己免疫疾患 –最新の進歩–

1等賞(賞金800万円)

「自己免疫疾患、天疱瘡の病態解明と臨床応用」

慶應義塾大学医学部皮膚科

教 授 ^{あまが い まさゆき} 天谷 雅行先生

2等賞(賞金400万円)

「自己免疫疾患の遺伝子解析:ゲノム情報から機能解析へ」

- 1) 東京大学大学院 医学系研究科 内科学専攻 アレルギーリウマチ学
- 2) 理化学研究所 ゲノム医科学研究センター 自己免疫疾患研究チーム
- 3) ハーバード大学医学部ブリガムアンドウィメンズ病院 リウマチ免疫アレルギー部門
- 4) 京都大学大学院医学研究科附属ゲノム医学センター 統計遺伝学分野

教 授 ^{やまもと かずひこ} 山本 一彦^{1) 2)}先生

上級研究員 ^{こうち ゆうた} 高地 雄太²⁾先生

上級研究員 ^{すずき あかり} 鈴木 亜香里²⁾先生

研 究 員 ^{おかだ ゆきのり} 岡田 随象³⁾先生

教 授 ^{やまだ りょう} 山田 亮⁴⁾先生

2012年度 専門委員

糸山 泰人 先生	国立精神・神経医療研究センター病院 病院長
岸本 忠三 先生	大阪大学免疫学フロンティア研究センター 特任教授
島田 眞路 先生	山梨大学医学部附属病院 病院長
竹内 勤 先生	慶應義塾大学医学部 リウマチ内科 教授
三森 経世 先生	京都大学大学院医学研究科 内科学講座 臨床免疫学 教授

常任委員

井村 裕夫 先生	京都大学 名誉教授 先端医療振興財団 理事長
高久 史磨 先生	東京大学 名誉教授 日本医学会 会長
豊島久真男先生	東京大学・大阪大学 名誉教授 理化学研究所 研究顧問
早石 修 先生	京都大学 名誉教授 大阪バイオサイエンス研究所 理事長
鳥居 正男	ベーリンガーインゲルハイムジャパン株式会社 代表取締役 社長

ベーリンガーインゲルハイムについて

ベーリンガーインゲルハイムグループは、世界でトップ 20 の製薬企業の 1 つです。ドイツのインゲルハイムを本拠とし、世界で 145 の関連会社と 44,000 人以上の社員が、事業を展開しています。1885 年の設立以来、株式公開をしない企業形態の特色を生かしながら、臨床的価値の高いヒト用医薬品および動物薬の研究開発、製造、販売に注力してきました。

ベーリンガーインゲルハイムにとって、社会的責任を果たすことは、企業文化の最も重要な柱の1つです。事業を展開する世界の国々において、社会問題に取り組み、社員とその家族を思いやり、全社員に平等な機会を提供することが、ベーリンガーインゲルハイムの基盤です。そして、尊重と誠実を重んじ、環境保護と持続可能な社会の実現に向けて貢献することが、ベーリンガーインゲルハイムの本質であり使命です。

2011年度は132億ユーロ(約1兆4,624億円)の売上を示しました。革新的な医薬品を世に送り出すべく、医療用医薬品事業の売上の23.5%相当額を研究開発に投資しました。

日本ではベーリンガーインゲルハイム ジャパン株式会社が持ち株会社として、その傘下にある完全子会社の日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社(医療用医薬品)、エスエス製薬株式会社(一般用医薬品)、ベーリンガーインゲルハイム ベトメディカ ジャパン株式会社(動物用医薬品)、ベーリンガーインゲルハイム製薬株式会社(医薬品製造)の4つの事業会社を統括しています。日本のグループ全体で約2,700人の社員が、革新的な医薬品の研究、開発、製造、販売に従事しています。

日本ベーリンガーインゲルハイムは、呼吸器、循環器、中枢神経などの疾患領域で革新的な医療用医薬品を提供しています。また、グローバルな研究・開発の一翼を担う医薬研究所を神戸に擁しています。

詳細は下記をご参照ください。

www.boehringer-ingenelheim.co.jp

お問い合わせ先:

ベーリンガーインゲルハイム ジャパン株式会社
広報部

Tel. 03-6417-2145
Fax. 03-5435-2920